

学校関係者評価報告について

専修学校熊本YMCA学院
 学院長 岡 成也

専修学校熊本YMCA学院では、すべての教育内容や通常の業務において、現状を点検し、更なる改善・向上を図っていくため自己点検・評価に取り組み、「学校評価報告書」を取りまとめ、本校ホームページ上で公表いたします。

去る2019（令和元）年11月に、学校関係の知見の深い方々を中心にご意見等を伺い、今後の教育活動や学校運営に反映させるべく、学校全体に係る「学校関係者評価」を実施いたしました。学校関係者評価委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき感謝申し上げます。学校関係者評価委員会では、多くの貴重なご意見やご指導をいただき感謝申し上げます。

また、あらためて学校評価の重要性を認識したところです。ここに、学校関係者評価の内容につきまして報告いたします。今後とも、より良い学校運営を目指し、教職員一同努力して参る所存であります。引き続き一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

記

1. 「学校関係者評価」の実施方法について

今回の学校関係者評価は、文部科学省が策定した「専修学校における学校評価ガイドライン」を踏まえた評価項目に沿って実施し、本校の「2017年度 自己評価」について、専門学校に關係の深い評価委員に評価していただいた。

各評価委員には、事前に前記の自己評価集計表を配布した上で、学習の成果についての報告を行い、委員会にて意見等を聴取した。その内容等について要約の上、報告書として取りまとめた。

2. 委員

	氏名	所属	専任区分
外部 関係者	村上 泰浩	崇城大学 工学部 建築学科 教授	有識者
	櫻井 孝一	ANA クラウンプラザホテル熊本ニュースカイ	企業
	本田 あずさ	武蔵ヶ丘病院	卒業生
	渡邊 裕晃	西合志中央保育園 副主任	卒業生
	中村 賢次郎	公益財団法人熊本YMCA ウェルネス事業部 統括部長	企業
	岡 成也	熊本YMCA学園 学院長	職員

3. 委員会

第1回 日時：2019年11月28日（木）18：30～20：30

- (1) 開会 学院長挨拶
- (2) 議長選出 中村賢次郎委員
- (3) 2018年度学修の成果および自己評価について
- (4) 質疑応答および意見交換

(3) 2018年度学習の成果及び自己評価

○2017年度教育目標に対する成果について

- ・検定合格率平均70%の目標に対して、平均は67.4%となり未達となった。
- ・専門分野への就職率は96.2%。
- ・企業との連携を深めるため、通常の実習に加え、見学実習等、現場での学びの機会を多く取り組んだ。
- ・「職業理解セミナー」を開催し、各分野における講話、現場見学を実施。
- ・各学科において、専門領域につながるボランティア活動、地域貢献活動等に取り組んだ。
- ・入学後、進路選択の誤りに気づいたり、専門分野の履修課題についていけない等の理由により、退学率は7.1%となった。

○2018年度学校自己評価集計表について

教育理念・目標について

- ・社会の変化に対応する力を持った専門職としての未来像の明確化にし、2019年度、各分野の即戦力としての人材育成を継続して進めていく。

学校運営について

- ・留学生の受け入れ、社会人の学び直し等、社会の変化に対応すべく、入学者対象を広げ、安定した運営につなげていく。

教育活動について

- ・各業界、企業、施設との関係に加え、継続して地域社会とのつながりの機会を多く設けるための教育課程編成を行っていく。

学修成果について

- ・卒業生を主な対象として、リカレント教育の一環としてのセミナーを開催し、スキルアップの機会を提供するとともに、卒業後の動静を把握する。

学生の受け入れ募集について

- ・募集に関して、紙媒体のパンフレットだけでなく、ソーシャルネットワークサービスの活用を始めたことにより、ユースへの認知が広がりつつある。

社会貢献・地域貢献について

- ・西日本豪雨災害のボランティア活動として1週間滞在。重機が入ることができない地域の土砂の処理等に取り組んだ。
- ・盲学校の児童生徒を対象としたキャンプのリーダーとして学生が参加し、障がいを持った子どもたちの野外活動の支援を行った。
- ・各学科の専門性を活かした教育プログラムの開発を行っていく。

(4) 質疑応答および意見

- ・各業界の人手不足は直近の課題。働き方改革に伴い、テレワーク、ICTの活用、経験年数からくる働き方の把握等、現場において工夫が求められている。そのような中、職業観や、やりがいを感じる機会の提供が必要である。
- ・教職員による現場研修を行い、各分野における新しい取り組みや専門性のブラッシュアップを行ってみたいかどうか。
- ・卒後研修の対象を卒業生のみならず、就職先の上司も招待し、現場とのつながり、異業種の交流の機会を設定してみたいかどうか。

- ・同窓会組織としての取り組みはできていないが、関連団体の研修や会合にて集まる機会はある。有効活用してはどうか。

(5) 閉会

終わりに、学院長より各委員へ貴重なご意見に対するお礼の挨拶を行い、その中でも、教育の質の向上、留学生の受け入れ対応強化、ブランド力を活かした教育の推進、リカレント教育等、今後、本校における評価を真摯に受け止め、評価すべき取り組みは継続し、課題や改善点を整理し、改善方策を鋭意検討していきたい旨、報告があった。

以上